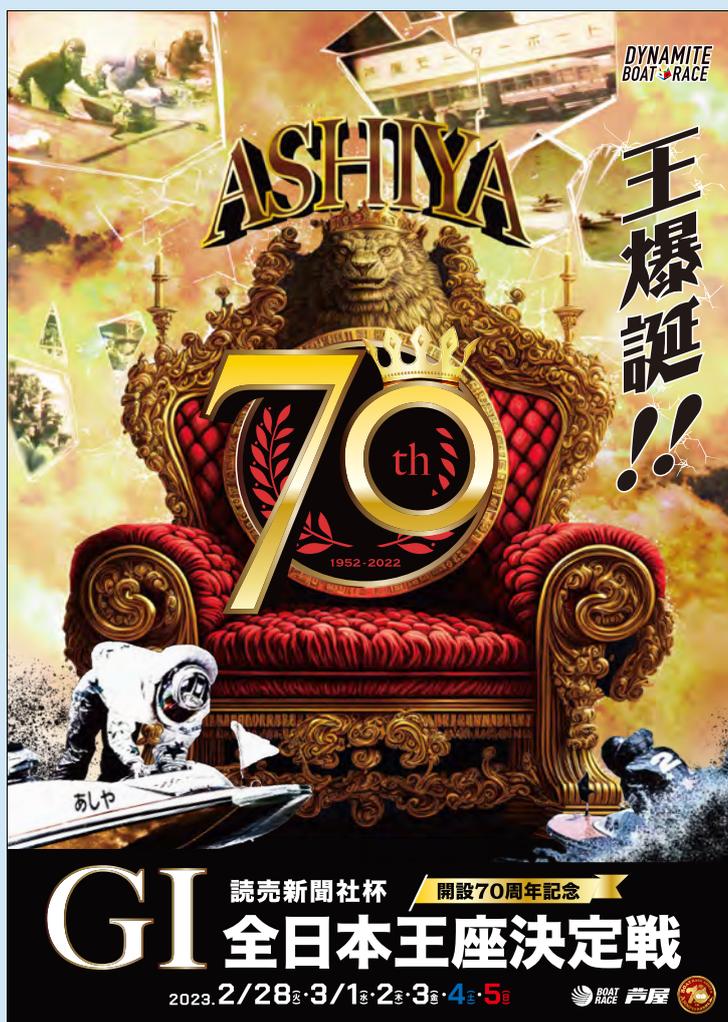


GI全日本王座決定戦を開催!



2月28日(土)～3月5日(日)の6日間、『読売新聞社杯 GI全日本王座決定戦 開設70周年記念』を開催します。期間中、ステージイベントやワークショップなど、皆さんで楽しめるイベントを行います。

※入場料100円が必要です(20歳未満は無料です)。

▷問い合わせ ボートレース芦屋企画宣伝係 (☎223-0581)

3/4
(土)

デリシャスパーティ♡
プリキュアショー

観覧無料

時間 1回目 11:30～
2回目 14:00～

場所 あしや夢リアホール



©ABC-A・東映アニメーション

ショー終了後には写真撮影会もあるよ!各回(50組)
入場時に先着にて整理券配布いたします

3/5
(日)

梅沢富美男
トークショー

観覧無料

- ① 第6R発売中
(13:00頃～)
- ② 第9R発売中
(14:30頃～)

場所 あしや夢リアホール



GI全日本王座決定戦
特設サイト



あしや夢リアホールイベント情報

エンタメライブ with 即興劇団 三角定規

▷とき 3月12日(日)・正午(午前11時30分開場)
～午後1時30分

▷ところ あしや夢リアホール

▷料金 前売り2000円、当日2500円

▷チケット予約

【インターネット】カンフェティ

※会員登録が必要です。

【電話】0120-240-540(オペレーター対応)

※受付時間は平日・午前10時～午後6時

▷問い合わせ あしや夢リアホール(☎221-1117)



カンフェティ
ホームページ



ワタナベ九州の芸人による
お笑いネタライブも開催!

ブルーリバー(川原豪介・青木淳也)

土居上野(上野聖和・土居祥平)

芦屋歴史紀行

その三百二十一

特別展

「玉井家・吉田家・杉山家」
〜人の望みと喜びと〜より

特別展では、幕末から昭和にかけての、芦屋と若松を舞台とした3家の関わりを展示しています。その始まりの物語を、玉井政雄著『九州郷土夜話』より一部変更の上抜粋し、紹介します。

奇兵隊の密使と芦屋港

文久3（1863）年10月下旬の事である。芦屋町市場町（現在の西浜町）の薬種商人、塩田久右衛門家の門口に、浪人者らしい二人の男が立った。どちらも若い。「主人に会いたい」そういつて一通の手紙を差し出した。番頭が主人の久右衛門に取り次いだ。手紙は下関の旧友福島屋要助のものである。久右衛門は二人を奥の離れ座敷に案内させ、自分は衣服をあらためて二人の前に出た。



△下関功山寺の高杉晋作像

「長州奇兵隊士、小田村素太郎」「同じく木谷市之丞だ」二人はそう名乗った。「高杉先生の命で依頼したことがあって来たのだ」

小田村がすぐ用件を切り出した。福岡藩の内情を詳しく知りたいというのである。

文久3年は幕府の攘夷決行の方針が決まったので、長州藩は5月にアメリカ、フランス、オランダなどの船に砲撃を加え、6月にアメリカ軍艦、フランス軍艦によって下関を砲撃された年である。8月には公武合体派の策謀によって朝議が一変し、長州藩は京都から追われ、三条実美ら尊攘派の公卿7人が長州に落ちた。しかし、長州はあくまで倒幕路線を推し進めるつもりだから、奇兵隊士が福岡藩の藩情を探るために密かに派遣されたわけである。奇兵隊は文久3年6月、高杉晋作によって結成された新しい型の軍隊である。

福岡藩諸国応接係の杉山三郎平と尊皇派で医師の早川養敬が小田村に対応した。杉山と早川とが、「藩公に直接会うのは無理だから、重役を会い、その手を通して藩公の書簡をもらって帰ったらどうだろう。使者の面目は一応立つと思われが」

久右衛門もそばから口を添えた。小田村は重役にだけ会い、長州へ帰っていった。が、時勢はこれからまた激しく動くことになる。

元治元（1864）年、幕府は長州征伐（第一次）を命じ、諸侯に兵を出させた。総参謀が西郷吉之助である。芦屋町には薩摩藩兵三千人が来て駐軍した。薩摩藩の軍艦乾行丸と蒸気船豊瑞丸も来ている。芦屋の薩摩本陣は観音寺に置かれた。西郷の奔走によって長州藩の謝罪が決まり、征長軍が解兵することになったときは、吉之助も芦屋の本陣へ足を運んでいる。

征長軍解兵から1カ月と経たぬころ、高杉晋作が挙兵して長州の藩論をくつがえしている。慶応2（1866）年の第二次長州征伐のときは、芦屋町には福岡藩兵が駐屯した。長州征伐の失敗によってさらに屋台骨の揺らいだ幕府は、慶応3年に大政奉還し、やがて薩長を中心にした明治の新政が始まったころ、子爵に叙せられた榎取素彦という長州出身の人物がいたが、この榎取が奇兵隊の密使、小田村素太郎であったという。

三郎平は廢藩後、一家を挙げて芦屋町に移住し、久右衛門との交わりを深めた。久右衛門は維新後、芦屋

に住みついた杉山三郎平一家の世話を色々していたが、杉山家に来るときは、「常に羽織袴を着用に及んで、威儀端然恰も臣下の主君に対する態度であった」という。杉山一家は久右衛門の没した翌年、福岡に帰ることになるが、大正末年に出版された其日庵 杉山茂丸著書「百魔」に、久右衛門の事蹟が記述されている。

（芦屋歴史の里）

編集後記

▼『星たちの光あつめて見えてきたこの道をいく明日の僕は』NHKの朝ドラ『舞い上がれ!』で詠まれた俳句です。二十歳を迎えた皆さんに贈るのに良い句だなあと思いました。そして、皆さんを見守る一人として、今の気持ちにぴったりの短歌も紹介させていただきます。

『君が行く、新たな道を照らすよ
う千億の星に頼んでおいた』
二十歳の皆さんにエールを送ります。これらの俳句はドラマの脚本家、桑原亮子さんの作品です。桑原さんは、2011年に「歌会始の儀」で入選者10人に選ばれた歌人でもあります。（敏守）